<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>岩瀬文庫本『万葉拾穂抄』解題と翻刻（下）</td>
<td>岩瀬文庫本『万葉拾穂抄』解題と翻刻（下）</td>
</tr>
<tr>
<td>大石 眞由香</td>
<td>大石 眞由香</td>
</tr>
<tr>
<td>大石真由香：叙説（奈良女子大学日本アジア言語文化学会）第41号</td>
<td>大石真由香：叙説（奈良女子大学日本アジア言語文化学会）第41号</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
岩瀬文庫本『万葉拾穂抄』解題と翻刻（下）

大石真由香

1、本稿は、岩瀬文庫本『万葉拾穂抄』解題と翻刻（上）に

（叙説）三編、平成二年三月を承る。

2、翻刻の用字は、以下の要領に従った。翻刻は原本の表記に

従うことを原則とし、明らかに誤字のある箇所もそのまま

翻字した。ただし、以下の場合は変更を行った。

・漢字の縦返し記号は「（）」に統一した。

・仮名遣、清濁は原本の通りとする。但し、濁点符は通行

の形に統一し、不濁点符は漢字の右に「（）」を付す。

・本文に加筆訂正について、以下の要領に従った。

・本文に虫損等のある場合、「（）」で推定される文字を

補った。推定が不可能な場合、「（）」で推定される文字を

記す。

・ミスケ、黒滅等のある場合、該当箇所を（抹消）と

して記す。
言語は表現を用いることで異なる文化を理解し、交流を促進する重要な手段となります。
この夜を
きいていかは妹こひんかしきたへ
行へくろかみしきてなかき

○ 49 4

三熊野の浦の浜ゆふ

○ 49 5

桟原の浦の浜木もへなる

○ 49 6

へつな心也

○ 49 7

三熊野の浦雲也

○ 49 8

八九
情報を提供していただくことをお願いいたします。
岩瀬文庫本
万葉拾遺抄
解題と翻刻（下）

さくらはい／やと同音も／きぬの新しきさやくと
なる也。しつむは挙け戻くに居／たたけ云歎。愚案玉き
ぬあさやかなる衣をたたけさやくと／しつつまり
たし妹に物をもとこて来ておむびねたりと成べし。

桜本朝臣人麻呂歌一首
きみか家に吾すみみのへちを／わかれはわすれしのち
なさばは

倍合女郎歌一首

駿河採女歌一首

三方鮮弥歌一首

わかせここは物なおもひこそ／仙日いかなる事有とも／火にも
水にも成つ／うすへき我にてもなし。／我させことでは思ひ
に

に

み

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に

に
青旗の葛木山・仙崎日没に／はひかりて手の長くしけ／き

にたまふか／淡路は／抹消。住吉／書人。三津の浜。より

かこのととよひは舟子共／の声よばぶ心也。

かこのととよひは舟子共／の声よばぶ心也。

明晩の旦霧隠嘔／見つ／栗原八雲抄積讃名所／集寺阿波谷々。

うらみを通して浦を見見ての心な

うらみを通して浦を見見ての心な

鳥自物なさつひゆけは／鴨は人になつゝ物なれはなつさひを

いはん謳詞也。／浦々しまく／見なれそれれゆく事をなつ

さらひゆけはと云云。
(一) "凝酥の琴音 - さざれ楽無地 -" 并没有通常
志貴皇子御歌一首

阿倍女郎歌一首

阿倍女郎答歌一首

石川郷女歌一首
安貴王歌 一首並短歌

今も見ることも空飛鳥の今も見ゆるか如く

宮中へ帰りゆく女をとるのもと見るゆるる

やるもすべく悲しすともも等

なたはかたしきひのなこりあくまでに人の見るこをわれし

乏しくかくれくにみて／佐しき心なるへし。0 5 3 4

安貴王歌一首並短歌

△ なにはかたしきひの名残／名残はあとまとう波也。／あくまでといは序歌也。／人はあくまでに見る女を／私はうゎかたくひでも／かな。

△ つつまこのこにあらねは／遠く隔来女を思ふ歌也。

反歌

相副まはしきと也。

△ しきたへの一領まかさす／たてををて／年そへにけるあはぬけぎ。下の詠に／委。

△ 退却本郷／退却／八上采女にひさしく逢／はぬけぎ。一領まかさす／たてををて／年そへにけるあはぬけぎ。下の詠に／委。

△ 退却本郷／退却／八上采女にひさしく逢／はぬけぎ。一領まかさす／たてををて／年そへにけるあはぬけぎ。下の詠に／委。

△ 退却本郷／退却／八上采女にひさしく逢／はぬけぎ。一領まかさす／たてををて／年そへにけるあはぬけぎ。下の詠に／委。

△ 退却本郷／退却／八上采女にひさしく逢／はぬけぎ。一領まかさす／たてををて／年そへにけるあはぬけぎ。下の詠に／委。

△ 退却本郷／退却／八上采女にひさしく逢／はぬけぎ。一領まかさす／たてををて／年そへにけるあはぬけぎ。下の詠に／委。

△ 退却本郷／退却／八上采女にひさしく逢／はぬけぎ。一領まかさす／たてををて／年そへにけるあはぬけぎ。下の詠に／委。

門部主恋歌一首
高田女王贈今城王歌六首

之事清くいただくも／はしまし／／仙世事清け／におもしはんに／いた
なくなる立に／にやも。／こと／にや／しく／君が／となり／君しは／

むをおう／により／よむも。／家言／い／し／は／の／いしは

さことは／伊／たに／に／もなかは／に／やしか／／に／いしは

ひと／ことを／し／み／こ／／さ／く／の／う／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／/
山すけのみなならぬ事をわれにより／いはれしきみはたれとかぬらん。

賀茂女王歌一首

草枕たひゆく君をうつくしみ／たくひてそこしかのはまへを

右一首大監伴宿百代

おほのものみつとはいはし／大伴の三津をいひかけて／あ

かねさし照る月夜に／あへりとも見つとは人に／はしと

へりとも

右大監大伴宿百代等贈駕使　歌一首

太宰大監大伴宿百代

以前天平二年庚午夏六月師大伴／卿喜／生し瘡脚疾苦

もはうなるいはくに山をこえん日／手向何せよあらきその

みち

右少典山口　忌寸若麻呂

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴

欲語／遺言／者勅／右兵庫助大伴宿箱稲／公治部少大伴
○まそかに見あかぬ君に／真十鏡は見あかぬを説く／諷

詞也さひつとはさひ／しとひてと悬／鏡の縁

◇まそかに見あかぬ君に／真十鏡は見あかぬを説く／諷

◇みは玉の黒髪かはり／いたさきはいたる恋心也／いた

◇恋心あれはたとひ／白髪の老後年へも逢／期あると

◇はい恋君／僕には逢期あるとならんと

◇こにありつくしくや／緩 /

◇草香江の入江にあさる／去るならばしは／友の歌も葉心なるへし。

◇この新古今にはたなりし／山の西にあらしと人。

◇草香江の入江にあさる／去るならばしは／友の歌も葉心なるへし。

◇此 бизнесの新古今にはたなりし／山の西にあらしと人。

◇歌や／あたつくしはたと／しさかなからしに赤い。

◇今よりはきやまの道はさびしきもの／寄かよはひととおもひし

◇物を上京し給へはもあるさ／て此山道さびしからんと

◇物を上京し給へはもあるさ／て此山道さびしからんと

◇わかぬを人になさせそ／あびきる／にはばをとこの手にも

◇わかぬを人になさせそ／あびきる／にはばをとこの手にも

◇はい大伴宿祢依悲／別歌一首

○大伴宿祢依悲／別歌一首

岩瀬文庫本『万葉拾抄』解題と翻刻（下）
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
あめつちとともに久しく住はん／おもびてありし家の庭はも
春日山朝立雲の夢ひなく／見まほのほしく君にもあるかも
◇春日山朝立雲の夢ひなく／見まほのほしく君にもあるかも

立坂上部女歌一首
 Assad
あみつはこひさしましを妹を見ても／もとなかくのみ／こひは

岩瀬文庫本『万葉拾遺抄』解題と翻刻（下）
あら玉の年へゆけは／心中やうく年へゆけ／は若

我名を人に告る／ともあらん。努力よ今は／心を思い

tyume ni ni／gokui ni／もん

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる

かおもひを人にしらすや／玉くしをひらきあつと夢に

見ゆる
（一）日開八競覇『浮橋競歩団』並びに競歩

（二）浮橋競歩団の競歩

（三）浮橋競歩団の競歩

（四）浮橋競歩団の競歩

（五）浮橋競歩団の競歩

（六）浮橋競歩団の競歩

（七）浮橋競歩団の競歩

（八）浮橋競歩団の競歩

（九）浮橋競歩団の競歩

（十）浮橋競歩団の競歩

（十一）浮橋競歩団の競歩

（十二）浮橋競歩団の競歩

（十三）浮橋競歩団の競歩

（十四）浮橋競歩団の競歩

（十五）浮橋競歩団の競歩

（十六）浮橋競歩団の競歩

（十七）浮橋競歩団の競歩

（十八）浮橋競歩団の競歩

（十九）浮橋競歩団の競歩

（二十）浮橋競歩団の競歩

（二十一）浮橋競歩団の競歩

（二十二）浮橋競歩団の競歩

（二十三）浮橋競歩団の競歩

（二十四）浮橋競歩団の競歩

（二十五）浮橋競歩団の競歩

（二十六）浮橋競歩団の競歩

（二十七）浮橋競歩団の競歩

（二十八）浮橋競歩団の競歩

（二十九）浮橋競歩団の競歩

（三十）浮橋競歩団の競歩

（三十一）浮橋競歩団の競歩

（三十二）浮橋競歩団の競歩

（三十三）浮橋競歩団の競歩

（三十四）浮橋競歩団の競歩

（三十五）浮橋競歩団の競歩

（三十六）浮橋競歩団の競歩

（三十七）浮橋競歩団の競歩

（三十八）浮橋競歩団の競歩

（三十九）浮橋競歩団の競歩

（四十）浮橋競歩団の競歩

（四十一）浮橋競歩団の競歩

（四十二）浮橋競歩団の競歩

（四十三）浮橋競歩団の競歩

（四十四）浮橋競歩団の競歩

（四十五）浮橋競歩団の競歩

（四十六）浮橋競歩団の競歩

（四十七）浮橋競歩団の競歩

（四十八）浮橋競歩団の競歩

（四十九）浮橋競歩団の競歩

（五十）浮橋競歩団の競歩
若葉文庫本「万葉拾抄」解題と翻刻（下）

岩瀬文庫本「万葉拾抄」解題と翻刻（下）

◇あからひく日も∥（吹入）
見安月∥赤裳引也。
黒染綿を日も

◇あからひく日も∥（書人）

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇是めより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより

◇はしめより長くひつ∥
かく絶るとならばはしめより
君によりことのしけを／君ゆへに世のうるさき人言／し
けきゆへかやうのさはりあ／らさくらんためあすか河／に
御神するも／注一尾／云と此歌の下句かやうに／一説に
ありと也／上句五七／を首と／下句五七々を尾／といふ
なるへし／

△

では哀れれとの心ぞ／

△

大伴四縫宴席歌一首

△

なにさしあ使のきつる／しかさやうに也／
君をこそ待／

△

佐伯宿祢軒歌一首

△

初花のちるへきものを／花をちらし興あらすへき／物をさ
かたき人事により／てさる事もなしと仮る也／

△

湯原王贈／娘子歌二首

△

うはへなき物かも人は／／仙月うはへなきとは上もなく／きと

△

云心也。はほどに情／なき事は又上もあるも／といふ事也。
大伴坂上郎女歌一首
久堅のあまの露霊をきにけり／いへにある人もち恋ぬらん

大伴宿祢河麻呂歌三首

あひ見ては月もへなく／／仙月をそろとは空言と／／

東詞也。逢みて月も／／へぬに恋しけとは／／空言／／とは

おもしれぬをもふといへは／／さかりは見安雲神も／／

入かはりてと云いは／／おもしれぬをもふといへは／／

大伴坂上郎女歌六首

われのみぞ君にはこふる／／童蒙抄日わかせことは男を／／

われのみそ君には恋るわかせか／／こふといふ事とは／／

ことのなくさそことはことのなくささそといふなり。
部宿祢葉歌一首

雨にも障りとせすして／妹からゆきてあはんと／此歌類

大伴坂上郎女歌一首

むかひて見れとも／八雲抄云たきはたより／り読

やうに左手つかひし女なるべし。／和名目鏡文選詠みみ

網元の山いをへかくせるさての崎／左手はへし子の夢にし

見ゆる

網元の山いをへかくせる／あこの／山八雲抄伊勢云々。／佐

堤の崎も同国也。あこの／山いくへもかくせるさての／

いったかみふるとも／雨にさばらめや／妹にあはんと言義之もの

をいた

いそのかみふるとも雨に／石上は大和。ふるといは毘枕詞也。聚

万葉には妹にあはんといひてし物をとあり。／仙点には

ちきりし物をとす。
恋々てあひたる物を／仙日歌第四句よはこゝるんと
和すへし。月／しあれは夜はまたあゝるん。しまして
と／いへらる。歌／虫跡か別れを歎く／歌に和し
て猶は／しまて別を急く／なかれてつぶる。詠歌女と
命婦は／婦人の五位以上を帯るを内命婦といふ也。内命婦
以上やの妻を外命婦と云／よし合義解に有。又周礼註に内命
婦は九嬢世婦也。外命婦は公卿大／夫妻也云々。（図外あ
りまでままれ

春日歌一首

足引の山 гражданの／山橋やぶかじといひて／赤き実な
る物は色／出していはん謡詞によ／めり。かく忍ひ
こめてのみ／あらんより色に出てかた／らび絶てたえし
は／逢事もあらんほどにとも／

月よみのお光りに来ませ／月読月夜月名弓皆／月神の事のよ
し日本紀／に見ゆ。月影にとるもお／はせ。遠き所ならね
はとく。
春日野に朝居る雲のししくに／われは恋ます每月日に異なる

春日野に朝居る雲のししくに／われは恋ます每月日に異なる

春日野に朝居る雲のししくに／われは恋ます每月日に異なる

春日野に朝居る雲のししくに／われは恋ます每月日に異なる
岩瀬文庫本
「万葉拾揺抄」解題と翻刻（下）
切手

人を去。心ようびは/すらふ心。我を思ふ心の少
をそかになる心なるへし。（鶴興 見安云』とし
に知く/我を人のへたるも）

てそにしてある／（貼紙

千鳥なくさほの河と／祇を我恋人のなひきて／

ちか馬打渡しとふとす也）

○よるひるといふふき不知／昼夜分ふ恋れは心は／君か夢には

○貼紙

千鳥なくさほの河と／祇を我恋人のなひきて／

りふるひるといふふき不知わがふるい／こころはだし夢に見え

きや

○もしはなくあるらん人を／あるかは哉也。

○つれもなくあるらん人を／あるかは哉也。

おもはすも妹かえまひを夢みて／心の中にさやつて／そをる

もえつ／思はひを／火に soste 原を。

○おもはすも妹かえまひ／えまひはえまも。

妹の笑ひ／顔をも。

○すらおとおもへる吾を／見つれは乱れも。みたれく／

て片思ひをせんとす也。

○ますらおとおもへる吾を／見つれは乱れも。みたれく／

まえらはえまし／えまひはえまも。

妹の笑ひ／顔をも。

○すらおとおもへると吾を／見つれは乱れも。みたれく／

て片思ひをせんとす也。

○すらおとおもへると吾を／見つれは乱れも。みたれく／

て片思ひをせんとす也。

○すらおとおもへると吾を／見つれは乱れも。みたれく／

て片思ひをせんとす也。

○すらおとおもへると吾を／見つれは乱れも。みたれく／

て片思ひをせんとす也。
足引の山にしれは／やしをなみ風俗なる事をしらて賤
きをも山住／の身れは見免し給へと也。

足引之連家持歌一首

大伴諾上郷方と

木石ならならん物を／物思はしてららんと也。

物かなしかり／物悲しくも也。

わかこのときし／刀自は女官／也。和名に負と書。老女を／雲と有。然共こそは女官／禁秘抄衣唐衣体也。結／中

黒くにしのし助字也。

さて有堪へき物を也。

もとなし恋ば／もとなばはよしなや也。恋ば／濁読也。ありか

あさかみのもみひたててかくはかり／なにの恋ばも夢に見え

反歌

○ 7 2 4

○ 7 2 2

かくはかり恋つ／あらせ／恋つ／あられすは心も／なき
とこにとわかゆかなくに／仙日とこは蓬莱嶋也。／心

は蓬莱へ尋ゆかんこそ／徒に舟中年につみみて／悲しか
らめと也。小金門に／は立出たかきよぼふる也。／是

○ 7 3

短歌

大伴諾上郷方と

心は子の刀自古郷に在て女の自由にいて是ぬを悲しく思ひし心

○ 7 2 3

よれと此月ころ有かをさを

伝歌報／贈大嬢歌也。此注イニナ。尤可然也。
田村

大伴上大姫
三伴姫家
持和歌三首

たくまなら手にもまかん
玉は手にとっても人と
かめす。

哀君を玉なら手にも巻

うつれの世やもふた

ふたゆくは我身にふたはひきたる

かはとの心也。世やもののは助字也。
此歌は大姫か何す

うつれの世やもふた

ふたゆくは我身にふたはひきたる

かはとの心也。世やもののは助字也。
此歌は大姫か何す

又大伴姫家
持和歌三首

いままはし名のおしきくも

おなによもたゆく

おなははおしきみなかんと也。
岩瀬文庫本「万葉拾陸抄」解題と翻刻（下）

同大橋贈家持歌二首

月夜には門に出たち／夕日間は夕日に出て辻／単なと問也。

足占は足／ふみして其数にて／占なぶも。ゆかまくを／ほ

はゆかまほしさに也。

月夜には門に出たち／夕日間は夕日に出て辻／単なと問也。

足占は足／ふみして其数にて／占なぶも。ゆかまくを／ほ

はゆかまほしさに也。

同大橋贈家持歌二首

又家持和

世のなかのくるしも物に／有けらば／抹消けらしと同

書人／けけると堪らう／恋にここへししぬへ／ければ恋

世の中の苦き物と也。

又家持和

後柳山のちもあはん／後もあはんとおもふ社／しぬべき物をけふ／までもあり

もあれ。さ／なくは死へきをと也。
店に来たら、
\begin{align*}
\begin{array}{c}
\text{近くに、}
\end{array}
\end{align*}

なにかお持ちですか？

\begin{align*}
\begin{array}{c}
\text{それも大丈夫です。}
\end{array}
\end{align*}

\begin{align*}
\begin{array}{c}
\text{それなら、}
\end{array}
\end{align*}

\begin{align*}
\begin{array}{c}
\text{お気軽にお立ち寄りください。}
\end{array}
\end{align*}
うつらなく故郷従／鶴は古郷になく物たれは也。彼野となら

は鶴と成の鳴をらんとより心を思ふへし。故郷は恋し

きものは妹を思ふ事のふかきをいは／とてくらへ物に

したるへし。故郷よりも妹をおもへともと也。

紀女郎報／贈家持歌一首

ことてしはたかことにあるか小山田の／なはしきものをもと

てゆく事をそへ／てよめり。相思るべき／身にもあらね

大伴宿祢家持更贈／紀女郎歌五首

わきもこかやとのまかきを見にゆかは／けたし門よりかへして

うつったへにまかきのすかた／此腰句箇聚万葉には／見まく

へという心にや／伝え。袖中抄にはうつるへ／といふ心

勧云々。歌は箇／ありさま見ましくせは／ゆかんと

口にては偏にいへや。まことは君を見にこそはゆけと也。

袖中抄に／まかきのすかたとは箇に立休らぶ姿載へと

君を見にこそといふに不叶。

見にこそ

板ふきの黒木の屋根は山近し／明日取いてまいりりこ

切の心をあり／はしたり。山近き所は板ふきするやね

の黒木は明日てまいらんと也。

上四

板ふきの黒木の屋根は山近し／明日取いてまいりりこ

切の心をあり／はしたり。山近き所は板ふきするやね

の黒木は明日てまいらんと也。
みる雨はやさしくふるに／いやしくふるのはいり

ゆめのことおほゆるかも／よしゑやし前注。

花さかたき梅を殻て／人の事しきむもひそ吾

か使間なく有／嬉しきに如夢思ふと。

うらわかみ花咲かたき／若木の梅時過去／花さかね人の

ありや／みふ事しつけく我／花待兼る思ふると。

又家持藤原久須麻呂歌

する

うらわかみ花咲かたき／若木の梅時過去／花さかね人の

ありや／みふ事しつけく我／花待兼る思ふると。

藤原朝臣久須麻呂来報歌一首

かとかもかか御心あらんと。

かとかもかか御心あらんと。まにく／は君か心に任せよ

とひてよも心有ると含たり。

又谷山のいはかけにふる／序歌也。

菅の根のねもころとい

はため也。あひもはされや／とはねんころに我あひ

おもはさらんやあひおもはんた。

春雨をまつとしあらし吾やとの／わが木の梅もいまやく

やほほるうかも／放あやしく覚ると也。
春雨をまつとにしらししの字すむ。八雲云いまたくも

季吟（印）

岩瀬文庫本「万葉拾揃抄」解題と翻刻（下）